

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 分析と考察

- 国語Aの平均正答率は、県平均をわずかに上回っているが、国語Bについては、県平均を下回っている。また、国語Aでは県平均正答数以上の児童は8割程度いるが、低い児童もいる。国語Bでは県平均正答数以上の児童は、半分程度であるが、低い児童も数人もいる。
- 観点別で見ると、国語Aでは「話す・聞く能力」が県平均と比べて低く、国語Bでは「読む能力」以外は県平均を下回っている。特に「話す・聞く能力」は、弱い傾向にある。
- 設問別で見ると、国語Aでは「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」「古文における言語の響きやリズムを楽しみながら読む」ことが、かなり弱い傾向にある。また、国語Bでは「スピーチメモのよさを捉える」「話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」が低く、特に「目的や意図に応じ、引用して書く」ことは、大きく下回っている。

2 成果と課題

- 基礎・基本については、補充学習や家庭学習の充実により定着してきていると言える。
- 活用問題が弱く、「読む」「書く」「話す」において課題が見られる。しかも、個人差もあり個別指導が必要である。
- 国語科に対する関心・意欲・態度が非常に低く、さらなる授業の工夫・改善が必要である。

3 今後の具体的な取り組み

《全体として》

- ・国語科の授業では、毎回初めに3分間の音読に取り組みさせる。一斉に同じところを声出しして読ませることで、点や丸、要点に注意して読む習慣を身につける。
- ・漢字は、国語の授業で毎時間3問テストを行い既習の漢字の読み・書きを鍛えていく。
- ・話す・聞く能力、読む能力が県平均に比べると低いので、読解力を高めていくために、授業や朝の活動やチャレンジタイムで問題集を活用し、問題に慣れたり解説を聞いて自分の間違いや解き方を復習したりする。
- ・村学力テストに向けて、計画的に過去問題等に取り組む。

《下位層に対して》

- ・既習漢字の読み書き、文章に書かれていることの読み取り、ことわざの使い方の間違いが多いので、朝のドリルタイムや放課後のチャレンジタイムを活用して個別指導を行う。また、課せられた問題プリント等のやり直しを、その日の内に個別指導しながら、弱点克服に努める。
- ・全国学力調査で理解できていなかった単元や問題をはっきりさせ、自分の解答がなぜ間違っていたのかを、デジタルテレビを活用して解説する。特に、できていなかった問題については再テストを行い、補充していく。

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 分析と考察

- 算数Aの平均正答率は、県平均を上回っていて、算数Bは、県平均を大きく下回っている。また、算数Aでは県平均正答数以上の児童は6割程度いるが、低い児童も数人いる。また、算数Bでは県平均正答数以上の児童は、4割程度と少なく、低い児童も同じ程度いる。
- 観点別で見ると、算数Aでは「技能」「知識・理解」が県平均をわずかに上回っていて、算数Bでは「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」共に大きく下回っている。
- 設問別で見ると、算数Aでは「乗法で表すことのできる二つの数量関係の理解」「1より小さい小数をかける乗法の数量関係を数直線に表す」「整数の乗法の計算」が弱い傾向にある。また、算数Bでは「2つの数量関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する」「示された資料から必要な数値を選び、求め方と答えを記述する」「示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断する」がかなり低い。

2 成果と課題

- 基礎・基本については、ドリル学習等の補充学習や授業改善により定着してきていると言える。
- 数量関係の理解や乗法の計算が十分でないため、ドリル学習や宿題等での繰り返し練習が必要である。
- きまりや求め方を記述したり、関係を理解し判断したりするなどの数学的な思考力が身につけていないので、アクティブ・ラーニング等の手法を取り入れた授業改善に力を入れていく。さらに、補充学習や宿題等で応用問題に取り組む必要もある。

3 今後の具体的取り組み

《全体として》

- ・算数科の授業では、姫島スタンダードに沿って日々の授業を大切にし、児童一人ひとりが課題をつかみ、自分の考えをしっかりと持ち、友だちの考えを参考にしたりして、その時間の学習内容をきちんと理解できるようにまとめ・振り返りに力を入れる。
- ・B活用の問題は、全体的に解けていないので過去問や活用問題集から1～2問ずつ定期的に宿題として取り組む。
- ・引き続き、朝のドリルタイムで問題集に取り組みせ、わからないところについては机間支援やペア教師による指導で弱点克服を行う。
- ・村学力テストに向けて、計画的に過去問題等に取り組む。

《下位層に対して》

- ・家庭での自学（自分学習～以下自学）の課題として、苦手なところの単元プリントを出すなど工夫をする。そして、できていなかったところを次の日の自学として取り組むなど、繰り返し行い理解の定着を図る。
- ・全国学力調査で理解できていなかった単元や問題をはっきりさせ、自分の解答がなぜ間違っていたのか、デジタルテレビを活用して解説をする。特に、できていなかった問題については再テストを行い、合格できるまで補充していく。

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 分析と考察

○国語Aの平均正答率は、県平均をわずかに下回っているが、国語Bではすべての項目で平均正答率が県平均を上回った。また、国語Aでは県平均正答数以上の生徒は9人中6人で、3人が県平均正答数を下回った。国語Bでは県平均正答率以上の生徒が9人中7人で、2人が県平均正答数を下回った。

○観点別で見ると、国語Aで「書くこと」「言語についての知識・理解・技能」において、県平均正答率を下回った。国語Bでは、すべての項目で県平均を上回った。

●設問別に見ると、国語Aで「書いた文章を推敲する問題」「複数(二つ以上)の条件がある作文」での正答率が低かった。言語については、書写(行書の特徴)の理解と、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題で、慣用句やことわざの意味が理解できていなかった。また、「事象や行為を表す語句」を問う問題で、話し合いの状況を表す語句が記述できず、正答率が低かった。

○国語Bでは、本の文章だけでなく、読書記録、紹介カード、スピーチ原稿、年表など様々な文章を読み比べ、自分の考えを表現する問題が出題されたが、無回答もなく、条件に即して解答できていた。また、必要な情報を読み取ったり集めたりする方法なども問われたが、適切に答えられていた。

2 成果と課題

○校内研の取り組みを中心とした授業改善に加え、朝読書などの読書活動やはがき新聞作りなどを通して、読解力や表現力など活用問題に対する力がついてきた。

●「言語についての知識・理解・技能」の問題で、慣用句やことわざ、行書の特徴など既習事項の正答率が低いことから、繰り返し復習することが必要である。

●書く問題で、複数の正答条件を満たしていない解答があり、今後の指導が必要である。

3 今後の具体的な取り組み

◇单元ごとに「書く」活動を設定する。特に条件作文を多く取り入れ、課題にそって書くことを通して、読み手に伝わる文章の書き方や材料、構成の工夫を考え、推敲する活動を設定する。個別の添削指導をし、個々の書く力を高める。

◇放課後の補充学習(やはずタイム)で言語事項(ことわざ、慣用句、敬語、漢字、文法)など既習事項の復習プリントに取り組ませる。家庭学習ノートを活用し、言語事項の復習、暗記に取り組ませる。

◇新聞記事を用いたワークシートを活用し、作文指導をする。

◇受験対策教材や入試の過去問題に取り組ませ、弱点の強化を図る。

◇学力調査類似活用問題を定期テストに出題し、問題に慣れさせるとともに、正答率の低い問題の解説・指導をする。

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 分析と考察

○数学A、数学Bともに、本校正答率が県と全国の値をこえている。

●数学Aで正答率の低かった問題は、おうぎ形の弧の長さを求める問題、円柱の体積を求める問題、平行四辺形になるための条件を答える問題で、図形の問題がややできていなかった。

○数学Bは、「数と式」「図形」「関数」の領域で、平均正答率が県と全国の値をこえており、「資料の活用」も県と全国とほぼ変わらないくらいの値であった。

●数学Bで正答率の低かった問題は、長い問題を読み取ってどのような回転移動になるか答える問題である。どの点を中心に何度、どの方向に周るかを答えなければならないが、一部間違えていたり、記述不足があったりした。また、規則性があり増えていくストローの本数が表された文字式の意味を説明する問題ができていなかった。

2 成果と課題

○数学Aでは、領域別においては、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で、平均正答率が県と全国の値をこえているので、全体的に力がついていると考えられる。また、選択問題形式の問題、短答式の問題も同じく県と全国の値をこえており、問題の出題方法にも慣れてきていると考えられる。

○数学Bでは、短答式の問題、記述式の問題が県と全国の値をこえており、今まで苦手にしてきた記述式の問題も少しずつ力がついていると考えられる。

○数学Bでは、無回答が少なくなったり、証明問題は記述式であったが、正答率が高かった。

3 今後の具体的な取り組み

◇実施直後の自校採点により正答率の低かった問題の補充を行うとともに、3年生の内容(式の展開、因数分解、平方根、二次方程式)を丁寧に指導する。

◇1月中旬くらいまでに教科書の内容を履修させ、それ以降は入試対策学習に力を入れる。

◇模試や入試対策テストで解答率の低い問題を解説する。

◇放課後補充学習(やはずタイム)では計算練習を中心に基礎的な問題を扱い、週末課題は入試対策教材や副教材で解いたB問題の類似問題を解かせる。

◇家庭学習で3年生の内容を中心に、授業の復習になる問題を解かせる。

◇こういった学力調査類似活用問題を定期テストに1問でも出題し、問題に慣れさせる。テスト終了後は、正答率の低い問題のやり直しをする。

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

○学習に対する関心・意欲・態度

国語の学習については、好きでないと否定的に答えた児童が77%と全国・県に比べると2倍程度多く、46%ほどが授業の内容がわからないと否定的に答えている。また、全国・県に比べて学習の大切さや必要性を感じている児童が少ない。さらに、読書についても好きでないと否定的に答えた児童が61パーセントと全国・県に比べて非常に多い。国語への関心・意欲・態度が非常に低いことがわかる。

具体的な内容では、「目的に応じて資料を読み、考えを話す・書くこと」「うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること」「考えの理由をわかるように書くこと」を苦手とする傾向にある。

算数の学習については、好きでないと否定的に答えた児童は54%ほどと全国・県よりも20%ほど多く、30%ほどが授業の内容がわからないと否定的に答えている。また、学習の大切さや必要性を84%の児童が感じているが、全国・県に比べて低い状況である。

具体的な内容では、「生活の中で活用する」「もっと簡単に解く方法を考える」「公式やきまりのわけを理解する」ことを苦手とする傾向にある。

総合的な学習の時間（本村では「ふるさと科」）については、77%の児童が課題解決的な学習に取り組んでいると答え、全国・県を16%も上回っている。

○規範意識・自尊感情

規範意識については、「学校のきまり」「友達との約束」を守っていると肯定的に答えた児童は100%である。しかし、「人が困っている時進んで助ける」「いじめは、どんな理由があってもいけない」ことに関して、全国・県に比べて意識が低い。

自尊感情については、「達成した喜びを味わった」「将来の夢を持っている」と肯定的に答えた児童が100%であったが、「自分によいところがある」と回答した割合が全国・県に比べて非常に低い。

○学習の基盤となる活動・習慣

言語活動・読解力については、「考えや意見を発表すること」「話し合い活動で、意見をまとめること」を苦手とする児童が多い。また、これまで「話し合う活動」や「問題解決学習」に取り組んだ経験が少ないことがわかった。さらに、「感想文や説明文を書いたりすること」「自分の考えを説明したり、書いたりすること」を苦手とする児童が非常に多い。

生活習慣については、「朝食を食べている」児童は100%であるが、就寝・起床が不規則な児童が全国・県に比べて多い。

学習習慣については、家で宿題をしている児童が全国・県に比べて多いが、計画的に勉強できているとは言い難い。また、予習や復習をする児童は非常に少ない。

2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- 姫小スタンダードにそった問題解決学習やアクティブ・ラーニングの推進
- 読解力や読書力を培うための工夫・改善
- 学校と家庭との連携強化
- 学力と特に相関が強いと考えられる事項についての考察

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

生徒質問紙

○学習に対する関心・意欲・態度

国語の学習について、「好きである」「大切である」と回答している生徒は、全国・県平均値とほぼ同じであるが、国語の問題について「最後まで解答を書こうと努力した」生徒が100%であり、全国・県より25ポイント程高く、国語の学習に対する意欲の高さがうかがえる。

具体的な内容では、「目的に応じて資料を読み、考えを話す、書く」ことを苦手とする傾向にある。また、「自分の考えを書くときに、考えの理由が分かるように書く」ことについては、全国・県の2倍程度のポイントとなっており、意識して取り組むことができている。

数学の学習については、「好きである」「よく分かる」と回答している生徒は、全国・県平均値より15ポイント程度高く、習熟度別授業による個に応じた指導の成果が表れている。

「総合的な学習の時間」（本村では「ふるさと科」）については、課題解決的な学習に取り組んでいると解答した生徒が、全国・県を下回っている。

○規範意識・自尊感情

規範意識については、「学校の規則を守る」「友達との約束を守る」「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した生徒が100%であり、規範意識の高さがわかる。

自尊感情については、「成就感を味わった」「将来の目標や夢を持つ」ことについては、「当てはまる」と回答した生徒は、全国・県に比べて高い。しかし、「失敗を恐れなくて挑戦する」「自分にはよいところがある」の質問に対して「当てはまる」と回答した生徒は、全国・県に比べて低い。

○学習の基盤となる活動・習慣

言語活動・読解力において、これまでの授業において「自分の考えを発表する機会が与えられていた」「話し合い活動がよく行われていた」ととらえている生徒は全国・県を上回っているが、その場面で、「自分の意見を発表する」「自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめる」ことについては、苦手とする傾向にある。

生活習慣については、「朝食を毎日食べる」生徒の割合が全国・県よりも低く、就寝時間が全国・県に比べて不規則な傾向にある。

学習習慣については、家で宿題をする生徒は100%であるが、計画的に学習に取り組んだり、予習・復習をする生徒の割合は、全国・県に比べると低い。

2 姫島村の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・新大分スタンダード、アクティブ・ラーニングの視点にそった授業改善
- ・家庭学習習慣の定着のため、家庭と連携した情報機器類の使用制限の徹底と学習に向かう環境整備の推進
- ・基本的な生活習慣確立に向けた取組の工夫・改善
- ・自尊感情を高めるための支援や場づくり

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

○教科指導

個に応じた指導については、算数の授業の中で習熟別・少人数・TT指導を計画していたが、人員の確保が難しいなどにより、きめ細かな指導・支援が十分行われているとは言えない。

国語の指導法については、基礎的・基本的な事項を定着させる授業や補充的な学習の指導に力を入れてきた。しかし、発展的な学習や目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業については不十分などところがあった。

算数の指導法については、補充的な学習や反復練習をする授業に力を入れてきた。しかし、実生活における事象との関連をはかった授業を十分行うことはできていない。

○学力向上

児童の状況については、落ち着いて真面目に学習することができる。しかし、「考えを深めたり、広げたりする」「資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発言や発表を行う」ことが苦手な傾向にある。

学力向上に向けた取り組み・指導方法については、「新大分スタンダード」にそった姫小スタンダードの確立を図るためにさまざまな取り組みや指導法の工夫がなされていることがわかる。しかし、問題解決学習・資料やインターネットを活用した学習など、まだまだ不十分などところもある。

家庭学習については、習慣化を図るために教職員で共通理解を図り、児童や保護者に対して働きかけを行ってきている。しかし、課題の与え方や内容についての共通理解が十分図れていない。特に、調べたり文章を書いたりするなどの宿題は出せていない。

○学校経営

地域人材・施設の活用においては、保護者や地域の人々の協力を得ながら子どもたちの育ちを支援する取り組みを行ってきている。しかし、ボランティア等による授業サポートや離島ということもあり博物館や科学館などの施設を利用した学習は難しい。

教育研修・教職員の取り組みについては、課題を明確にし、学校教育目標・重点目標の達成に向け全教職員で組織的に研修や授業改善を行ってきている。しかし、研修時間の確保が難しく、問題解決学習やアクティブ・ラーニングに関する研修がまだまだ不十分と言える。

2 姫島村の学校質問紙の調査結果をふまえて

- 学力向上に向けた人的・物的支援
- 学校・保護者・地域とが一体となった子育て支援体制の充実
- 姫小スタンダードにそった問題解決学習やアクティブ・ラーニングの推進
- 小中連携の推進と強化
- 教職員の授業力向上に向けた研修時間の確保と研修内容の充実

【 姫 島 村 】

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

中学校：学校質問紙

○教科指導

個に応じた指導については、特に数学及び英語の授業の中で習熟度別・少人数・T T指導を十分に行ってきた。

国語科の指導法においては、補充的・発展的な学習の指導や、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業に力を入れた。様々な文章を読む習慣を付ける授業についてはやや不十分なところがあった。

数学科の指導法においては、実生活における事象との関連を図った授業がやや不十分ではあったが、計算問題等の反復練習等補充的な学習の指導に力を入れてきた。

○学力向上

生徒の状況については、私語をしないなど授業中の学習規律はほぼ整っており、グループ活動等も円滑に行えるが、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているとは言い難い。

学力向上に向けた取組・指導方法については、「新大分スタンダード」に基づき、「1時間完結型」授業や「板書の構造化」「習熟の程度に応じた指導」に係る取組に工夫をしてきたことが分かるが、「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」の工夫が更に求められる。図書館資料を活用した計画的な授業も不十分であった。

家庭学習については、各学年の目標学習時間を設定し生徒や保護者に働きかけを行ってきたが、家庭学習の内容や与え方、その評価・指導等に改善の余地がある。「姫島っ子 家庭学習のすすめ」をより効果的に活用させる必要がある。

○学校経営

地域人材・施設の活用においては、職場体験学習や地域の人と関わりながら地域を学ぶ学習、地域住民やPTAの方々の協力等の分野では進展が見られる。地域住民等のボランティア等による学校の授業サポートはさほど行えなかったが、土曜日等を利用した「協育」ネットワーク連携促進事業に係る取組は十分に実施できた。

教員研修・教職員の取組の分野では、校内研究のテーマを定め、研究主任のリードの下、講師を招聘しての理論研究や授業研究等実践的な研究を行った。ユネスコスクールの指定を受け、小学校と連携しE S Dの視点からの教育活動をどのように進めていくのかの研究が望まれる。

2 姫島村の学校質問紙調査の結果をふまえて

- 「新大分スタンダード」に基づく、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業展開の工夫
- 保護者と連携した家庭学習の充実に係る取組強化
- 小学校と連携したE S Dの視点からの教育活動の推進